第 6 期 pES club シナリオ 5

平成 19 年 5 月 13 日
横浜市立市民病院　薬剤部
五十嵐　俊
東京北社会保険病院　総合診療科
南郷　栄秀
http://spell.umin.jp

あなたは名羅手部総合病院薬剤部に勤務する 5 年目薬剤師です.

院内の救急外来運営委員会がこのほど, 喘息診療に関するワーキンググループを立ち上げ，あなたもそのメンバーに抜擢されました.

当院を受診する喘息患者は, 夜間・早朝に発作を起こして救急外来を受診することが多くなっています．その際，必ずしも主治医が診療するとは限らないため，院内で喘息治療を標準化しておく必要がありました．そこで，本ワーキンググループでは, 喘息治療の診療マニュアルを作成することになりました.

ところが，昨日のミーティングでちょっとしたトラブルが発生しました. 治療薬選択の話題になった際, 気管支拡張薬であるβ刺激薬の使用を巡って議論が紛糾したのです．非発作時の治療として，短時間作用型のβ刺激薬は原則処方しない事になりましたが, 長時間β刺激薬の使用については意見が 2 つに割れてしまったのです．1 つは，長時間作用型β刺激薬を使用し，発作のコントロールをするべきという意見，もう 1 つは，製剤の持つ危険性への危惧から，原則使用するべきではないという意見です．特に，過去に受け持ち患者の死亡例を経験した薬剤師は「β刺激薬は絶対に使用するべきではない」と主張し，もう一方の意見に全く耳を傾けようともしません.

議論が膠着し, ワーキンググループは機能しない状態となってしまいました．すると，メンバーの一人から，きちんとエビデンスを調べてから再度使用を検討してはどうかと提案がありました.

あなたは, 次回の会議までに長時間作用型β刺激薬の有用性について調べてみることにしました.